

には、リンクがあります。 は、WAMNETの事業者情報にリンクします。

事業所名 グループホーム こもれびの家

日付 平成18年3月31日
特定非営利活動法人
ライフサポート

評価機関名

評価調査員 在宅介護経験15年
 評価調査員 在宅介護経験12年
 評価調査員 老人保健施設相談員、介護支援専門員
 経験6年、厚生労働省認知症介護指導員

自主評価結果を見る

評価項目の内容を見る

事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)

外部評価の結果

講評

全体を通して(特に良いと思われる点など)

代表者の地元で社会貢献したいとする意図が管理者をはじめ職員によく反映している。経営についても「赤字を出さなければそれで良い…」と言われているようだ。そうした理念が据わっており、職員が伸び伸びとケアできる環境が保障されている様子を感じられた。

若い男性管理者が率先して認知症ケアについて、先進的なグループホームへ泊り込み学習に出向くなど、隣接の先進的ホームとの交流を行うなど、頼もしい限りである。建物は平屋での2ユニット構成で、中庭の広い板張りベランダ(ウッドデッキゾーン)や菜園等の戸外空間と繋がりがしやすい設計で、利用者が様々な利用でき、複数の居場所作りが出来そうである。また、現実に玄関をはじめ日中は屋外への出入りは自由になっており、利用者は日光浴・散歩・買物等の屋外の活動を楽しんでいるようだ。菜園は働き者の男性利用者の手によって立派に野菜の苗が育っているし、小春日和のこの日は、早々と朝から洗濯物や布団がその中庭に干されていて生活感のリズムを感じられた。ケアの基本は、利用者夫々の残存能力を活かす生活支援を行おうとしているし、提携医との連携もしっかりしていて安心である。

また、散歩や買物・喫茶店へのお出かけは利用者の自由な希望を出るだけ叶える形で取り組まれている。職員が若い人が多い事も、こうした積極的な取り組みを生み出す原動力なのだろうと感じられた。排泄誘導や一寸した声かけもタイミングを適切に計って、自然な寄り添い感の中で行われているのが嬉しい。所在地住民を対象に公民館で高齢者介護の勉強会を年4回開催するなど、開かれたホーム作りを目指しつつ地域への貢献をしようとしている点は高く評価されよう。

特に改善の余地があると思われる点 次のような提案をした

トイレの数が1ユニットに2ヶ所であり、現時点では余り不足は感じていないようだが、今後利用者の重症化比率が高くなった際に不足を感じるのではと心配される。機会を見て、こうしたハード面での増改築を検討されては…。

食事についてメニューや食材の調達方法、そして、調理の仕方などを改めて検討して見る必要があるように思われる。生活の中で食事の意味を職員全体で今一度議論してみても感じた。

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有		
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か		
	代表者は社会貢献を第一に考えており、「地域の人たちに役立つ事で還元したい」という強い思いを持っている。管理者を始めとして職員には若い人が多いが、代表者の思いを十分に汲み取って自分たちも地域社会に貢献したいという考えを持っている。 日常のケアでは利用者一人ひとりに残されている能力を生かして、その人に出来ることや希望を尊重しての生活を心掛けている。広い廊下やウッドデッキを活かしての日光浴、お茶会、そして食事なども取り組まれている。 管理者は近隣の先進的な事業所へも頻りに足を運び、様々な機会に研修等受けるように努力している。また、地域への関わりを深めようと地域での認知症介護福祉に関する勉強会を年間4回程度開き、地域住民の参加を得て啓発活動に取り組んでいることを高く評価したい。		

生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り		
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり		
4	建物の外回りや空間の活用		
5	場所間違い等の防止策		
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か		
	ホーム全体に木が多く使用されゆったりと落ち着いた環境を醸し出している。リビングは広めに確保されており、車椅子や歩行器等の使用に際しても支障が少なく考えられる。また、リビング以外にサブ空間を持っており、喫煙者はそこで喫煙し、他の利用者への配慮が窺われた。廊下幅も十分に確保されており、ホーム内での行動もしやすいように工夫されている。夫々の居場所で、新聞を眺めたり、TVを見たり、段ボール箱の工作仕事をしたりする等多様な夫々の時間を過ごされている。利用者の状況把握がしやすい設計であるため、職員にとっても「見守り」の点でも安心感がある。		

ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		
7	個別の記録		
8	確実な申し送り・情報伝達		
9	チームケアのための会議		
10	入居者一人ひとりの尊重		
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ		
12	入居者のペースの尊重		
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援		
14	一人でできることへの配慮		
15	入居者一人ひとりに合わせた調理方法・盛り付けの工夫		
16	食事を楽しむことのできる支援		

III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援		
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮		
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援		
20	プライドを大切にされた整容の支援		
21	安眠の支援		
22	金銭管理と買い物の支援		
23	痴呆の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保		
24	身体機能の維持		
25	トラブルへの対応		
26	口腔内の清潔保持		
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応		
28	服薬の支援		
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		
30	家族の訪問支援		
記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か		
	利用者にとって居室以外でくつろげる場所が数多く用意されている。例えば食堂やその横のサブ空間としての部屋、また容易に外に出られる建物構造、そして戸外での自由な利用の仕方など、様々な利用の方法が感じられた。また家族からは積極的に利用者に関する要望や希望、あるいは過去の生活歴などを聞き取る努力をして、そうした情報をもとにこのホームでの生活に役立つように活用しようという姿勢が感じられた。 そうした中で、画一的でなく夫々の利用者好みや能力に合わせた過ごし方を尊重している事が伝わってきた。利用者に対しては笑顔で接している姿が印象的で、職員同士の私語も少なく、利用者への注意力が感じられた。		

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映		
32	家族の意見や要望を引き出す働きかけ		
33	家族への日常の様子に関する情報提供		
34	地域との連携と交流促進		
35	ホーム機能の地域への還元		
記述項目	サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か。		
	日々発生する様々な出来事や問題に対しては、定期的なカンファレンスやミーティングだけでなく、意見交換ノートで職員同士が適宜に意見交換している。それらを通じて早期に課題の解決をしようという姿勢が、記録等の中にも認められる。定例会議では宿題が提起されることは、職員の自主力量を高める努力として注目してよい。 毎月ホーム便りとしての「こもれび新聞」を発行すると共に、個別には職員の手書きによる健康面・入浴・排泄状況を記入した「家族通信」を送る等の取り組みをしている。更には積極的な研修への参加意欲もあり、その事が現場でのケアに将来的に生かされるものと感じられた。また、近隣のグループホームとの交流や研修に参加し、介護の質の向上を追及しようとしている。更に、地域住民向けに公会堂で講師を招き高齢者介護福祉の勉強会を開催し、地域との交流を進めている点は特筆される。また、高校生や中学生のボランティアを受け入れ、開かれたホーム作りを目指している。		